

皇紀二千六百七十年（平成二十二年）

奉祝・新嘗祭の儀（勤労感謝の日）

島津 義広



<<戻る 次へ>>

28日、皇居内の水田で稲刈りされる天皇陛下。自ら植えたもち米マンガツモチとうるち米ニホンマサリの稲計100株をかまで丁寧に刈り取った。収穫した稲は宮中祭祀などに使われる(宮内庁提供)【時事通信社】

【関連ニュース】

[天皇陛下が稲刈り](#)

[男性、クマに襲われる=田んぼで農作業中=兵庫](#)

[古く米も使いたる田んぼアート=愛知県尾張旭市\(地域\)](#)

陛下稲刈りの儀に臨まれる

豊穰の証

陛下に関わる記事であるならば、もう少し敬意を以って報道し得ないのか、といつものごとくにニュースを拝見しております。しかし、陛下におかれては麗しく本年も稲刈りの儀に臨まれた、との報。心温まる思いが広がります。日本の食幹をになう新稲の実は国の豊穰の証であり、遙かなる昔から、歴代陛下による新嘗祭の儀を以って広く国中が親しみ、実りに感謝を重ねて来た伝統があることは、多くの読者のみなさまにはご存知のことかと拝察いたしております。

天皇陛下が稲刈り

天皇陛下は28日午後、皇居内の水田で恒例の稲刈りをされた。宮内庁によると、今年の作柄は平年並み。ベージュの開襟シャツに茶色のズボンをはき、長靴姿の陛下は、自ら植えたもち米マンガツモチとうるち米ニホンマサリの稲計100株をかまで丁寧に刈り取った。収穫した稲は宮中祭祀(さいし)などに使われる。時事通信(Web)9月28日付記事より参照のため引用

一粒にこもる、皇国の歴史の底深さと誇り、そして感謝

初夏を過ぎようとする時期に、陛下が長靴を履かれ田植えに臨まれる様子を報じるメディアは僅少です。稀に写真記事が配され拝見する時に、心躍る感慨を禁じ得ない。拙き身にはまったくの専門外のことではあるけれども、先祖代々の日本人の一人として、日本に居る時は、農家をお願いして年々田植えの一部を手伝わせていただいで来ました。

それがきっかけとなり、土壌の一部調査と解析、改良のアイデアを提供するその代わりとして、神奈川と南薩の、水田のごく一部の猫の額ほどのスペースを拝借いたし、過去数年間、自己研究米の生育を試みて来ましたが、未だ確たる成功までにはいたっていない。本年は、国思う活動増加と貧窮のため、自己米の試育はお休みとし、田植えと稲刈りの一部を手伝わせていただいた次第です。猛暑の影響か、一部では収穫減が伝えられていましたが、神奈川県内では、縄文期よりはるかな日本人の先祖が住し、すでに稲作をなして来た事跡が認められる境川、引地川、相模川の各周辺の水田では、まずまずの収穫が得られた様子です。

米一粒、一粒にこもる二六七〇年を悠に超える皇国日本の歴史の底深さと誇り、そして感謝を肅々と共有させていただきたき、本年も、国思うみなさまとともに、来る新嘗祭の儀をお祝いしたく思います。

平成二十二年九月二十八日

博士の独り言

ブログ「博士の独り言」記事より

新嘗祭（勤労感謝の日）をお祝いして

勤労感謝の祝日。日本伝統の新嘗祭の儀を前に、日本国民の一人として、新穀の実りと日の丸に感謝を捧げ、奉祝の詞を申し上げたく存じます。

国を思うみなさまにはご存知の通り、この十一月二十三日は、「勤労を尊び、生産を祝い、国民互いに感謝しあう」との主旨をもとに、昭和二十三年（一九四八年）に「勤労感謝の日」として制定されました。この日は、本来、新暦（太陽暦）で「新嘗祭（いなめさい）」の日に当たります。食は人の命を支え養う大切な財（たから）です。この食を支える年々の実りに感謝する。そのために、日々汗して働くことを尊び合う。新嘗祭は、その結晶である新穀の实りをお祝いし、時の陛下が新米を神前に奉納する儀式を淵源としています。民間においてもその年の新穀をそれぞれに供え、感謝の念を以って食（は）み、収穫を祝う日とされて来しました。

新嘗祭の記述は日本書紀にまで遡（さかのぼ）ることができ、「皇極天皇の元年十一月十六日に「天皇は新嘗祭を行われた」と記されています。この「皇極元年十一月十六日」は、太陽暦に約せば六四二年十一月十二日となり、干支は丁卯にあたります。以って、当時に遡れば、すでに皇極天皇の御代（みよ）には、陰暦十一月第二の卯の日（太陽暦における十一月二十三日）に新嘗の儀が執り行われていた。この史実の一端からも、新嘗祭の伝統深き意義を拝することができ、先ず感謝を以って応分の礼となす日本人の精神性の高さを証する祝日と実感いたす次第です。

この古来より伝わる日本の佳き伝統の心に触れ、日の丸を肅々と掲げ、本年の新穀の实りに感謝致す日でありたく思います。地上の諸国には様々な変遷はあれども、日本は不変にして皇紀連綿と今日にまで続く無類の国であります。幾多の先人の智慧と労功、そして、尊い命に支えられてこそ今日の日本と。その心に感謝する日でありたいと願う次第です。

日の丸は、日本国民の誰もが共有すべき財（たから）です。先祖代々の日本。拙き家系においても、日の丸は、両親、祖父母、およびその前々の代から伝わるかけがえのない家宝となっています。世界の国旗の中でも最もシンプルであり、美観が整い、これほど明快な国旗は他に類を見ません。

常々、この日の丸のように在りたい、と。瑣末な身ではありながら、私もこの思いを新たにす次第です。

次世代に胸を張って引き継げる日本を願い、日々新たに、積もる大雪をも跳ね返す柳のような強靱さと、いかなる台風にも折れない巨木の威容にも喩（たと）えるべき厳とした日本人の誇れる強い心を以って、日の丸のもとに凜然たる日本を願い、良識のみなさまとともに、前へと歩を進めてまいりたく思います。国思うみなさまとともに、新嘗祭を心よりお祝いいたします。

謹白

平成二十二年新嘗祭を前に

島津 義広



日の丸をなぜ嫌遠するのか

旧来の読者のみなさまには稀少な事例かと思えます。個人差もあり、一概にはいえませんが、とにかく、人には、ふと、あるきっかけで物事の「好き」「嫌い」を決めてしまう傾向があるようです。先日、ある人からこんなお話を伺いました。

「あなたのブログに染井吉野（桜の一種）の写真があるが、許せない」（要旨）、とのことでした。どうして許せないのか。その理由をお伺いしてみると、どこぞの団体が染井吉野の画像、映像を使用しているのです、この桜が気に入らない、と。こういうお話でした。理由はそれだけですか、とお尋ねすると、「そうだ」と仰（おっしゃ）る。

また、こういうお話も以前にありました。みなさまへの年賀などの写真に、富士山を用いるのが気に入らない（要旨）と。その理由をお伺いしてみると、上記の「染井吉野」の理由とよく似ていました。どこぞのカルト団体がシンボリックに使用しているので、気に入らない（要旨）、とのお話でした。また、「富士山の写真を使用していると、あなたもカルト信者と間違われるぞ」、とこういうお話もありました。

いずれのお話も参考にはなりません。しかし、いかなる団体、組織とも無縁な視座から率直に申し上げれば、それらは染井吉野や富士山に失礼ではないか、と思います。いずこの団体や組織が存在するよりかはるか以前から、染井吉野や富士山はこの日本に存在して来たはずであり、この日本の、多くの先人に愛されて来たからです。また、これらを通じて、先人の心を思うことも大切ではないか、とこう思う次第です。

同じような傾向が日の丸に対しても流行しているようです。今時の団体や組織が使用しようとも、そこで、日の丸自体にアレルギーを抱く筋道にはありません。

そもそも、日の丸は日本の国旗であり、日本国民の大切な宝であることをそこで確認する必要があります。拙き身の実家では、日の丸は代々の家宝です。この日の丸はもとより、染井吉野や富士山など、昔から日本人が大切にして来た国民の存在に関わる心の宝から、一般心理を嫌遠させる意図を含む、いわば、日本人の心の弱体化を謀るかの、直接、間接的な策動の流れが存在しているのかもしれない、むしろ、肝を据えた日本人の英邁な眼（まなこ）で見抜くべきは、これらの本質ではないか、と拝察する次第です。

平成二十二年三月十九日

博士の独り言

ブログ「博士の独り言」記事より

